

6月定例報告

市長総括説明から

6月3日、平成22年第2回市議会定例会を開会しました。

台風2号の大雨による市内の被害状況、東日本震災の支援などについて報告した後、当面する市政の諸課題ならびに提出議案の主なものについて説明しました。

その概要をお知らせします。

安全に安心して暮らせるまち

○山山川緊急治水対策事業

国により、豊岡排水機場整備工事、KTR山山川橋梁架替工事、鳥居橋の架替工事等は3月末に完成しました。中郷築堤は今年9月、八代排水機場は本年度末完成予定です。円山川下流部では、本年度、パラペット設置工事の他、桃島樋門ゲートポンプ設置工事、戸島地区堤防嵩上げに係る用地買収に着手される予定です。また、稲葉川土地区画整理事業に関連して、国では円山川左岸や稲葉川左岸の築堤工

事を実施されています。県は旧国道312号の尾川橋架替工事に着手されています。

緊急治水対策事業完成後の内水への影響を市独自で解析しましたが、浸水は大幅に改善されます。

○災害対策

東日本震災では、本市の六つの課題も分かりました。

①最大想定津波の再検討②避難場所の確認および津波避難訓練③住宅の耐震化④戸籍等重要なデータのバックアップ

⑤地域コミュニティの強化⑥エネルギー対策で、今後、課題解決に取り組みます。

○総合健康ゾーンの運営状況

ウエルストーク豊岡は、オープンして1年です。初年度は、来場者、月会員登録者共におおむね堅調で、経営面も黒字です。

4月には、運動療法に特化した総合健康ゾーン診療所を開業し、生活習慣病等の重症化を予防するため、個人に合った指導を行っています。

○周産期医療体制の検討

4月に「但馬ここのとり周産期医療センター検討会議」が設置されました。検討会議

は、但馬の市町長、医師会長、分娩可能な医療機関の病院長、大学教授、県関係者などで構成され、年内に検討会議の取りまとめが予定されています。市では、過疎地域の周産期医療のモデルとなるように関与するとともに、財政的な支援をしていきたいと思えます。

○ドクターヘリ・ドクターカーの出動状況

昨年4月に就航したドクターヘリの出動件数は、今年3月末までに847件、1日平均2.4件の出動で、国内最多となっています。

また、昨年12月に運行開始したドクターカーの出動件数は3月末までで90件です。担当医師は「ドクターヘリで北近畿の重症患者の救命率は2倍から3倍上がったと思う」と話され、救命率向上と後遺症軽減に大いに寄与しているものと評価しています。

○豊岡市国民健康保険条例の一部改正

地方税法改正により基礎課税分の限度額を51万円に、後期高齢者支援金分の限度額を14万円に、介護分限度額を12万円に引き上げるとともに、

各税率を改定します。

賦課総額の決定にあたり、医療費の増加と現在の経済情勢を考慮し、国民健康保険財政調整基金から1億5千万円を充当します。被保険者1人当たりの国保税額は、基礎課税分、後期高齢者支援金分、介護分を合わせて9万5760円で、昨年度と比較して3.03パーセントの伸びです。

○こども医療費助成事業拡充

小学校4年生から中学校3年生までの児童・生徒に、入院の医療費助成をしています。

県の制度改正により、10月から小学校4年生から6年生までの通院の医療費も助成します。

人と自然が共生するまち

北但行政事務組合で用地買収が進められ、現在土地所有者の理解が得られていない用地は、1筆約265平方メートルです。

組合、土地所有者、地元有志で、立木トラスト実施団体にに対し契約撤回要請活動を続けられてきましたが、拒否、黙殺されています。

北但ごみ処理施設は、既存施設の損耗の状況、構成市町の財政への影響などを考える

と、平成27年度に完成する必要があると、また、用地取得は平成24年度上半期には完了しなければならず、土地収用制度の活用も視野に入れ、関連予算が組合議会で承認されました。直ちに土地収用制度を活用するのではなく、任意交渉を続け、事態進捗が見込まれない場合に備えるものとされています。

「豊岡市中心市街地活性化基本計画策定委員会」では、市民などへのヒアリング結果や市民アンケート結果などを踏まえ、計画の柱となるテーマを「住まう・集う・商う」の三つに設定し、まとめの作業に入っています。

豊岡商工会議所では、かばん関係者などで構成する「豊岡市中心市街地活性化協議会」が、「かばん」をキーワードに宵田商店街の空き店舗といちご駐車を一体活用する活性化策を検討されています。

持続可能な「力」を高めるまち

豊岡市中心市街地活性化対策

「豊岡市中心市街地活性化基本計画策定委員会」では、市民などへのヒアリング結果や市民アンケート結果などを踏まえ、計画の柱となるテーマを「住まう・集う・商う」の三つに設定し、まとめの作業に入っています。

市では、協議会の提案を踏まえ、基本計画を策定したいと考えています。

また、新庁舎完成を見越し、南庁舎別館、市民広場などの利用構想の策定にも取り組めます。

### ○観光誘客促進による

#### 地域活性化対策

市では、各観光協会の事業を支援し、観光誘客促進による地域活性化を図ります。

ゆかたの似合うまち城崎

温泉PRのためウェブサイトを「『美人時計』を活用した情報発信」、遠泳大会「竹野浜オーブンウォーター大会」、「神鍋高原マウンテンバイクレース」、「(仮称)出石藩時代祭り事業」、「たんとう『古代米アート』見学ツアー」などを支援します。

なお、但馬豊岡観光協議会に市が補助して制作した本市観光PR用の短編映画・CM映像は今月中旬完成予定です。完成後は、テレビ放映やホームページでの配信、さまざまな映像発信媒体で活用します。

また、特急「こうのとり」誕生記念事業も行います。今後シーズンの向け、JR大阪

環状線の一編成の車内吊り広告全てを豊岡ブランドの広告にする、新しくなった大阪駅に設けられたマルチビジョンでCM映像を放映するなどの事業を実施します。

### ○ものづくり支援

4月に「ものづくり支援センター」を新設しました。

5月には兵庫県立大学との間で連携協定を締結しました。連携の一環として、同大学の協力により、セミナーとものづくり技術相談会を開きます。

4月には、企業の技術力や販路拡大を進展し、本市経済の発展に貢献するため、「豊岡市工業会」が設立されました。

### ○魅力ある景観形成の取組み

市では、良好な景観の保全・創造のため、景観計画の策定や景観条例の制定に取り組んでいます。市独自で景観行政を行うため、6月1日付けで景観行政団体になりました。

これにより、景観計画や景観条例による取組みがより実効のあるものになります。

### ○バス交通対策

地域主体で公共交通を担う「チクタク奥山」は本年度から本格運行が始まり、但東町資

母地域では試験運行を開始しました。出石町小野地区でも取組みが準備されています。

新たに、10月から神鍋線を対象に上限200円バスの実証実験を行うための詰めをしています。

さらに、本年度よりバス通学の高校生の1月当たりの個人負担の上限を1万5千円とし、超過額を市が補助しますが、すでに多くの申請を受けています。

今年1月、宇宙ステーション補給機「こうのとり2号機」の打ち上げが成功しました。名称から、児童・生徒の宇宙への関心が大変高まっています。

### ○宇宙教育

これを機会に、児童・生徒が宇宙視点で環境を考えられるよう、また将来の目標を広げられるように宇宙学習に取り組めます。市立の全小中学校を対象に、5年計画で宇宙に関する学習を計画的、系統的に実施します。

### ○(仮称)竹野認定こども園の位置決定

「竹野・中竹野地域認定こども園新園舎検討委員会」で

適地とされた「竹野健康福祉センター駐車場」を建設場所に決定しました。今後、施設整備を行います。

### ■人生を楽しむ

お互いを支え合うまち

○全国市町村交流レガッタの開催

「第20回全国市町村交流レガッタ豊岡大会」を9月に円山川城崎漕艇場で開催します。

本年度は、茨城県潮来市で開催予定でしたが、東日本大震災の影響で本市に開催要請があり、受諾しました。

本市で開催することでポータ競技者をはじめ、被災地を応援したいと考えています。また、多くの選手や関係者を迎えることから、経済効果も期待しています。

### ■市政の運営

○新庁舎建設事業

新庁舎建設工事は、平成25年3月の完成に向けて本格的に着工しました。本年度は、主に地盤改良工事、杭工事、基礎工事、現本庁舎の曳家工事を実施する予定です。

敷地の土壌の調査については、結果を県に報告しました。今後、県の指導に基づき適切

な処理を行います。

### ○「いのちへの共感に満ちたまちづくり条例」の制定

早ければ6月中旬に検討委員会から中間報告がある見込みです。その後、委員会では、市民との意見交換を行い、条例素案を最終報告される予定です。これを受け、市では条例案を検討します。

### ○東日本大震災の公共事業への影響

国は、東日本大震災を受け、本年度の公共事業・施設費の執行を一律5パーセント削減する方針を示しています。

現段階での本市の影響は、道路・住宅・学校・教育・下水道の各分野で、13事業あり約3億7千万円余り減額となります。

市では、検討の結果、①現予算内で追加施工し、残事業は来年度以降に先送り↓②事業②引続き追加要望を行い、今後の国の動向を注視し、改めて実施判断↓③起債事業等他の財源を確保するなど、減額等があっても予定どおり実施↓④削減された補助金額の範囲内で実施↓⑤事業と方針を決めました。